

「日野ポンチョ」に 電子制御式5速オートマチック車を追加設定

小型路線バス「日野ポンチョ」に“電子制御式5速オートマチックトランスミッション”車を追加設定しました。ストップ＆ゴーの多い路線で使用されることの多いコミュニティバスの、ドライバーの運転に関わる負担を軽減し、安全と乗客へのサービスに力を注いでほしいというコンセプトです。



小型路線バス「日野ポンチョ」
2006年度グッドデザイン賞を受賞



ドライバーの運転に関
わる負担を軽減



乗り降りしやすい低い
床、客室フロアの80%
以上を占めるフルフラッ
トスペースなどのユニ
バーサルデザイン

神戸中古車センターを開設

2006年12月、兵庫県神戸市に日野ユートラック株式会社「神戸中古車センター」を開設。これまで運営してきた東京都瑞穂町の中古車センターと合わせて、国内2拠点体制で、中古車の販売を促進します。



中古車ビジネスをコア事業として拡大する
ことを目的とした「神戸中古車センター」

神戸研修センターを開設

神戸中古車センター敷地内に、日野グループ全体のサービス技術力のさらなる向上を目指すため、「神戸研修センター」を開設。複数配置した整備用レーンを活用し、国内販売会社のサービスエンジニアを対象に実技研修、セミナーなどを行います。



国内販売会社のサービス対応力向上を推進
し、お客様満足度のさらなる向上のために

日野自動車トピックス

Topics_04

トヨタ受託車生産累計1千万台を達成

2006年12月11日、トヨタ自動車からの受託生産車として1千万台目となる記念すべき「FJクルーザー」が、羽村工場のラインから発進しました。トヨタ受託車生産は1967年に始まり、以後ハイラックスピックアップ、T-100、ダイナなど多くの車種を生み出してきました。



式典では、次なる目標計2千万台に向け、職場代表らが決意を表明しました

日野自動車トピックス

Topics_05

カナダで北米専用車の現地組立を開始

北米専用トラックの組立工場として、年間生産能力2,000台のカナダ工場をオンタリオ州に開設、2006年4月より稼働しました。カナダでのトラック事業の本格的な拡大を目的とし、お客様への納期短縮など、サービス向上に努めます。



北米での組立拠点は、米国カリフォルニア州TABC社（トヨタ自動車の現地生産拠点）と合わせて2つに

日野自動車トピックス

Topics_06

スカニア販売網を活用し、韓国市場に日野中型トラックを投入

提携先であるスウェーデン・スカニア社の韓国現地法人、韓国スカニア社の販売ネットワークを利用し、日野製中型トラックを2007年4月より販売開始しました。販売したのは積載量4.5トンクラスの「日野レンジャーFD」をベースに、左ハンドル化や排出ガス規制対応などを韓国の国内法規に適合させたものです。

日野自動車トピックス

Topics_07

アーカンソー工場、稼働開始

米子会社である日野モーターズ・マニュファクチュアリングU.S.A.は、アーカンソー州マリオン市に建設していた工場を完成させ、2006年10月よりデフ、リアアクスル、サスペンション関係部品の生産を開始。米国における日野自動車のトヨタ事業のひとつの柱として、成長させてまいります。



生産能力は年間約30万台

日野自動車トピックス

Topics_08

パリダカ17年連続完走を達成
排気量10リッター以下クラスで優勝

世界で最も過酷といわれるパリダカ（ユーロミルホー・ダカールラリー2007）。2007年1月6日から21日まで、ポルトガルのリスボンからセネガルのダカールに至る、6カ国を舞台に繰り広げられました。日野チームスガワラの「日野レンジャー」が10リッター以下クラスで「1、2フィニッシュ」を達成しました。

「参戦以来の17年連続完走」「カミオン部門排気量10リッター以下クラスで優勝」の日野チームスガワラと日野レンジャー

カミオン部門 総合順位	ドライバー（メーカー）
1	ステイシー（マン）
2	マルデーブ（カマス）
3	ロブライス（タトラ）
4	バンギンケル（ジナフ）
5	テ・アヴェゼベド（タトラ）
6	ジャックコット（マン）
7	レシェニコフ（カマス）
8	ブロー（ジナフ）
9[1]	菅原照仁（日野）
13[2]	菅原義正（日野）

※【】内は排気量10リッター以下クラス順位